

官報

號外

明治二十九年一月二十四日 金曜日 內閣官報局

○第九回 貴族院議事速記録第七號

帝國議會 明治二十九年一月二十三日(木曜日)午前十時四十五分開議

議事日程 第七號 明治二十九年一月二十三日

午前十時開議

第一 船舶検査法案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 船舶職員法案(政府提出)

第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 船舶職員懲戒法案(政府提出)

第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○副議長(侯爵黒田長成君) 本日ハ蜂須賀議長所勞ニ附キマシテ、本員代理ヲ致シマス、去ル二十日本院ニ於テ可決致シマシタル清國償金ノ一部ヲ市町村立小學校ノ基本金ニ充ツルノ建議書ハ即日政府ニ提出致シマシテゴザイマス、次ニ治安警察法案特別委員會ニ於キマシテ、委員長ニ男爵榎村正直君、副委員長ニ村田保君當選ニ相成リマシテゴザイマス、議事日程ニ移リマス、船舶検査法案政府提出第一讀會ヲ開キマス、書記官ヲシテ提出文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

船舶検査法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治二十九年一月二十日

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
逓信大臣 白根專一

船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受クヘシ

一 海軍艦船

二 登簿噸數十五噸未満若クハ積石數百五十石未満ノ帆船
三 湖川其ノ他靜穩ノ海上ヲ航行スル帆船
四 櫓權ノミヲ以テ航行スル船舶

第二條 此ノ法律ニ依リ検査ヲ受クヘキ船舶ハ左ノ四種トス

一 遠洋航船

二 近海航船

三 沿海航船

四 平水航船

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間內特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第四條 登簿噸數十五噸以上若クハ積石數百五十石以上ノ船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル船舶司檢所之ヲ行ヒ登簿噸數十五噸未満ノ汽船ノ検査ハ其ノ仕出地ノ地方官廳之ヲ行フ

第五條 検査官吏船舶ヲ検査シ逓信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

第六條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セントスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若シ特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第八條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ逓信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得但再検査ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立テ又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス
第九條 逓信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶検査證書若クハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若クハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間ヲ超エテ航行シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若クハ假證書ヲ受ケ又ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ又ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ必要ナル屬具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタル者亦同シ

船舶検査證書若クハ假證書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十一條 船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十三條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有效期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十五條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數百五十石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受クルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第十六條 此ノ法律ハ外國ノ船舶ニ屬スル船舶ヲ借入レ帝國各港ノ間又ハ帝國ト外國トノ間ニ於テ航行ノ用ニ供スル者ニモ亦之ヲ適用ス

(國務大臣白根專一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(白根專一君) 諸君、此法律案ニ就キマシテ、大體ノ趣旨ヲ茲ニ陳述致シテ置キマス、現行法ノ西洋形船舶検査規則ハ十七年ニ制定ニナリマシタモノデアリマシテ、其規則タルヤ、今日ノ海運増長ニ應ジマシテハ、不完全タルヲ免レヌ所ノモノガ澤山アリマス、デ此際此法律案ヲ發布致シマシテ、大ニ此船舶ノ検査ヲシテ周到確實ナラシムルト云フコトヲ目的トシテ此法案ヲ編制致シマシタル譯デアリマス、抑、船舶ノ検査ト申シマスルモノハ其船體ノ堅牢ト、又航行上ノ安全ヲ保ツヤ否ヤト云フコトノ是ガ大凡ノ要點デアリマス、デ此要點ヲシテ、失ハザラシムルヲ以テ目的トシテ其法案ヲ編制致スト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマス、然ルニ現行法ニ於キマシテハ即チ讀ンデ字ノ如キ譯デアリマシテ、西洋形船舶検査規則デアリマスルカラ日本形船舶ニ其検査ノ力ヲ及スコトガ出來マセヌ、日本形ノ検査タルヤ、勿論西洋形同様ノ検査ヲ爲スト云フコトハ出來マセヌ、是ハ汽船ニマレ、帆船ニマレ、自カラ帆船ハ帆船、汽船ハ汽船ノ検査ヲ致ス譯デアリマスルカラ……然ルニ現行法ノ如キハ前ニ陳述致シマシタル通ニ日本形船舶ニ及バヌ、而シテ日本形船舶ハ果シテ其構造ノ堅牢ナルヤ又運行上ノ安全ヲ保ツヤ否ヤト云フコトニ就イテハ或ハ西洋形ノ汽船帆船ヨリハ其資格ニハ乏シイ、若シ之

ヲ分析シテ申シマスレバ日本形船舶ハ或ハ其構造ノ堅牢ト云フコトハ純粹ナルモノデアレバ許シテ宜シイカモ知レヌ、ナレドモ航行ノ安全ヲ保ツコトニ於テハ日本形ハ甚ダ其力ニ乏シイ、況ヤ數年前ヨリ間ヒノ子船ト稱ヘルモノガ現出致シマシテ此船舶ノ形ハ西洋形ニアラズ又日本形ニアラズ、日本形ニ類似スルモノガ就中多イ、何故類似スルモノガ多イカト申シマスルニ畢竟此船舶ノ検査ヲ免レルト云フノ趣意ニ外ナラヌデアラウト想像致シマスデアリマス、ソレデ執レノ點ヨリ考ヘマシテモ最早今日ノ海運ノ進度ニ於キマシテハ船ト申シマスル以上ハ西洋形ニ拘ラズ又日本形ニ拘ラズ如何ナル船體デモ或ル程度マデハ一切舉ゲテ其形式ニ偏セズシテ之ヲ検査スル所ノ必要ヲ認メマシタノデゴザイマス、是ハ即チ本案ニ有リマス所ノ第一ノ箇條デアリマス、而シテ從來ノ法律ニ依リマスル西洋形船舶ニ附キマシテハ此航行ノ期間ト云フモノガ六箇月又ハ十二箇月ト限テアリマス、是ハ能ク事實ニ照シマシテ考ヘマスルト強チ六箇月十二箇月ヲ以テ法律ニ於テ之ヲ定メルト云フノハ甚ダ當ヲ得ヌコト、考ヘマスル、汽船デゴザイマシテモ帆船デゴザイマシテモ其船ノ構造又製作ヲ致シマシテカラノ年數經過ニモ依ルコトデゴザイマス、況シテ汽船ト帆船ト同一ノ航行期間ヲ以テ處置ヲ致シマスルト云フモノハ甚ダ其當ヲ得ヌデゴザイマス、デ今般ノ法律ニ於キマシテハ是等ノコトヲ避ケマシテ其航行期間ト云フモノハ汽船又ハ帆船皆其宜シキ所ニ定メマシテ一切此法律ニ於テハ航行期間ヲ定メヌ、而シテ遞信大臣ノ職權ヲ以チマシテ司檢官吏ヲ出シマシテ其凡ソノ標準ヲ定メマシテ人民ノ營業ニ差閤ヘヌヤウニ又検査ノ效力ヲ失ハナイヤウニ然ルベキ程度ヲ示シマシテ其ヲ以テ處理致サセル積デアリマス、又此現行法律ニ於キマシテハ検査ニ附イテ一切不服ヲ申立ツル所ハ有リマセヌ一度司檢官ガ検査ヲ致シマシタ以上ハ之ヲ以テモウ終決ノモノト致シマスル、是ハ餘リ酷デアラウト思イマス、數千數百ノ検査ヲ致シマスル上ニ就キマシテハ其邊ニ於キマシテハドウモ是ハ何トカ申立テルヤウニシテ前ノ處分ヲ取消テ貰イタイト云フ苦情ガ無キニシモアラズト思イマスカラ此苦情ハ又更ニ申立テル所ノ門戸ヲ開イテ宜シク船舶所有者ヲシテ遺憾ナカラシメントスル譯デアリマス、又此現行法ニ於キマシテハ雇入外國船舶ニ就イテ検査ヲ致スト云フコトノ條項ハ一切ゴザイマセヌ、是ハ甚ダ不完全ナルコトデアラウト思イマス、ト云フモノハ縱ヒ外國船デゴザイマシテモ我國ノ人ガ之ヲ雇入レマシテ帝國各港或ハ帝國ト外國トノ間ニ於テ之ヲ使用致シマス時ニ當リマシテハ必ヤ其我國ノ船舶司檢官ノ検査ヲ經ルト云フコトハ貨物ノ保全又生命ノ保存ニ於キマシテモ必ズ必要ノ事デゴザイマシテ單ニ外國船ダカラト申シテ検査ヲセヌト云フコトハ或ハ帝國ノ航海權ニモ差響キヲ生ジャウト思イマスカラ是等ノ用意ヲ致シテアルノデアリマス、要スルニ

今般ノ法律ノ編制ハ検査ノ目的ヲ障害致シマセヌ限リハ成ルベク船舶所有者ニ便利ヲ與ヘルト云フ所ノ條項モ處々ニ見ヘテ居リマス。其邊ヲ以テ目的ト致シテ居リマス、現般船舶検査ノ事ニ附キマシテハ第二議會ニ於キマシテ政府ハ西洋形帆船検査廢止ノ件ヲ當院ニ提出致シマシテ當院ノ協賛ヲ求メマシタ、然ルニ當院ニハ之ヲ否決ニナリマシテアリマス、デ政府ハ其否決ニナリマシタ當院ノ院議ヲ重シマシテ成ルベク取締ヲ致シマシテ從來ノ施行ノ改ムベキモノハ改メ又設クベキモノハ設ケマシテ何トカシテ一艘船舶ノ取締ヲ仕ヤウト云フ考デ著手ヲ致シマシタコトデゴザリマス、併ナガラ如何セシ法律ヲ以テ編制ヲ致シマスコトハ出來マセヌ、云ハ其眞ノ行政上ノ手心デアリマス。カヲドウモ完全ヲ期スルコトハ出來ナカッタデゴザリマス、デ今般ハ帆船検査ヲ廢スルコト云フ唯一項ノミナラズ全般船舶ノ検査規則ヲ改正致シマシテ本法案ノ如ク編制ヲ致シタ譯デゴザリマス。カヲ其邊ハ矢張充分ナル之ガ結果ヲ生ズルト認定致シテ居リマス。デゴザリマス、大要前陳述致シマシタ所ノ趣旨デゴザリマス。カヲ宜シク諸君ノ御協賛アラント望ミマス。デゴザリマス。

○長谷川貞雄君 大體ニ就イテ一ツ質問致シタイガ宜シウゴザリマス。カ

○副議長(侯爵黑田長成君) 宜シウゴザリマス。

○長谷川貞雄君 此大體ハ至極結構ナ案ト存ジマス、從來ハ西洋形船舶ノ検査ノミヲ行ッテ居リマシタガ此度ハ擴張致シマシテ日本形船舶マデ検査ヲナサルコト云フコトハ實ニ結構デアリマス、併シ此日本形ハ非常ニ數ガ多イコトデゴザリマス。唯今遞信大臣ノ御述ニナッタ中ニモ充分其意思ハアリマシタガ西洋形船舶ハマア數ハ僅デアリマス、殊ニ造船ノ仕方ガ幾分カ一定シテ居ルコトデゴザリマス。ガ日本形船舶ニ至リマシテハ唯今大臣ノ御述ノ如ク從來ハ兎角一定致シテ居リマシタガ近頃ハ和洋折衷ノ船ガ大分多ク出來マシタヤウデ所謂ヒノ子船ガ多イヤウデアリマス、アレ等ハ別段造船學上ノ式ニ依ッテ出來タモノデモナイヤウニ承ッテ居リマス、是ハ餘程検査ノ上ニ御難儀デアラウト思ヒマス、加之五十石以上ノ船ニ致シマシタ所ガ七八千ノ數ハ有ウカト想像ヲ致シマス、之ヲ一時ニ検査ナサルコト云フコトハ隨分ノ大事業ト考ヘマシマス、是ニ就キマシテハ司檢所ノ數デモ餘程殖ヤシテナサル御見込デゴザリマス。カハ又何年間ニ此検査ヲ仕遂ルト云フヤウナ豫メ御見込ガ立ッテ居ルコト、考ヘマス、其邊ヲ第一ニ一ツ伺ヒタイ、第二ハ本案第三條デゴザリマスガ、三條ニ航行期間満了ト云フコトガゴザリマス。ガ航行期間ヲ定ムルト云フヤウナコトハ第五條ニ見ヘテ居リマス。ガ、從前ハ六箇月十二箇月ト區別ヲ致シテ検査ヲ致シテ居リヤウデゴザリマス。ガソレヲ廢メテ此始テ航行用ニ供スルトキト航行期間満了ノトキニ検査スルト云フヤウニ見ヘマシマス。ガ此航

行期間ト云フモノハドウ云フコトヲ御定メニナルノデゴザリマス。カ、例ハバ鐵船ハ何年木船ハ何年或ハ船ノ構造ニ依ッテ何年ト云フ保存期限ヲ御定メニナル譯デアリマス。カ、サウシマス。ルト若シ其間ニ或ハ破損致シテ修覆スルカ又ハ船ノ構造ヲ變ルトカ機關ヲ仕變ルトカ云フ場合ニハ若シ此航行期間ニサウ云フコトガ起ッタナラバドウシテ検査ヲナサイマス。カ、ソレガ第二箇條、其二箇條ヲ一ツ承リタイノデゴザリマス、政府委員ニドウカ御答辯ヲ願ヒマス。

○政府委員(佐藤秀顯君) 唯今ノ長谷川君ノ御質疑ニ御答ヲ致シマス、日本形船舶ナリ間ヒノ子船ナリノ構造ハ御懸念ノ通固ヨリ西洋形ノ汽船ナリ帆船トハ別デアリマス。ガ、詰リ日本形船舶ハ日本形船舶トシテ相當ノ構造ト云フモノガアル即チ一定ノ式ト云フモノガアルノデゴザリマス、ソレデ其式ニ適フテ居リマシテ航行ノ用ニ供セラル、ヤ否、果シテ相當ノ航路區域ニ航海ノ安全ヲ保ツコトガ出來ルカ否ト云フコトヲ検査致シマシテ、其船固有ノ式ニ適フテ居リマシテ其式ニ相當スル航路區域ヲ與ヘテ差支ナイモノデアリマス。レバ相當ノ航行期間ヲ定メテ検査證書ヲ渡スト云フコトニ致シマス。積デアリマス。カラ決シテ汽船又ハ西洋形帆船ト同一ノ検査法ト云フコトデアリマセヌ。カラシテ検査スルニ出來ナイト云フ譯デアリナイノデゴザリマス、ソレデ検査ヲ受クベキ數ハ一寸唯今マデノ數ニ比シマス。ルト殆ド十倍許リニ爲ルノデゴザリマス、固ヨリ非常ナ増加デゴザリマス。カヲレテ検査官吏ノ定員ハ無論増シテ參リマセズバナリマセズ又司檢所モ今日ノ所デハ東京大阪函館長崎ノ四箇所ニ限ッテアリマス。ルト來年度即チ二十九年デハ於テ愛知縣下ノ熱田ト新潟縣下ノ新潟ト出張所ヲ置キマシテ都合出張所ヲ合セマス。ト六箇所マデハ増ス積デアリマス。ガマダツンナコトデハ不便利ヲ感シヤウト存ジマス。カヲ出張所ハ更ニ四五箇所モ此改正法律ヲ實行致シマス。ルト殖ヤシマシテ人モ相當ニ増スコトニシテ遺憾ノナイコトニ仕ヤウト存ジテ居リマス、ソレカラ第三條航行期間ハ最初船舶ヲ始テ航行ノ用ニ供スルトキトツレカラ航行期間満了ノトキト又航行期間内特ニ必要アルトキトニ行フノデアリマス。ガ初ニ航行ノ用ニ供スル時ニハ即チ第一回検査デ其時ニハ始テ航行期間ナリ又航路區域ナリ總テノコトヲ定メマシテ此船ニハドレ程ノ資格ガ有ルト云フコトヲ極メルノデアリマス、十二箇月ナリ又帆船ニ致シマス。レバ二箇年ナリ三箇年ナリノ航行期間ヲ其時ニ定メマシテ其航行期間ノ満了致シマシタトキハ即チ十二箇月後或ハ三箇年後デアリマス、其時ニハ又改メマシテ更ニ相當ノ資格ヲ與ヘルノデアリマス、又航行期間内特ニ必要アルトキト申シマス。ルトハ即チ十二箇月ナリ三箇年ナリノ内ニ臨時海難ニ罹リマシテ修繕ヲ要シマス。ルト所ガ有リマス。トカ云フ場合ニ検査スルコトデアリマス、検査ノ仕方ハ其三回

ニ分ツテヤッテ參リマスレバツレデ差支ナイ考デアリマス

○名村泰藏君 一寸政府委員ニ質問致シマス、此第三條ノ所デゴザイマスガ舊法デ見マスルト、一旦検査ヲ受ケテ後船ノ模様ヲ變更シタ時ハ届出ヲナシテ更ニ検査ヲ受ケルト云フコトガ今ノ現行法ニ有リマスガ此第三條ニハドシナ手續ニナリマスカ船體ヲ變更シタ場合ニハ此検査ノ仕様ガ如何ナリマスルカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 矢張航行期間内デアリマスコトナレバ届出ヲ致サセマシテ検査ヲスルコトデアリマスカラ從前ト其邊ニ於テハ差ハナイノデアリマス

○名村泰藏君 今一ツ……其明文ヲ此處ヘ掲グストモ検査ハ出來ルト云フ御考デゴザイマスカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 「航行期間内特ニ必要アルトキ」ガ即チ今御尋ノ場合デアリマスガ届出ヲスルトカ此方カラシテ不審ガアル場合ニハ臨視ヲ致スト云フコト等ノ此法律ニ規定シテゴザイマセヌ部分ダケハ細則デ示ス心得デゴザイマス

○名村泰藏君 第四條ノ「其ノ所在地ヲ管轄スル」ト云フコトハ今日船籍規則ト云フモノガ行ハレテ居リマスルト船籍法ト云フモノニ依テ此所在地ヲ定メマスルコトハ容易イコトデアリマスガ船籍法ガ行レテ居ナイ今日デアリマスレバ此所在地ハドウシテ御定メニナルノデゴザイマスカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 御答ヲ致シマス所在地ト申シマスルモノハ即チ其船ノ居ル所ヲ管轄スルト云フ意味デアリマスカラ例ヘバ横濱ニ定繫港ヲ持ッテ居リマス船デ函館ニ居リマシタ場合ニ航行期間ガ滿了致シマシタトカ、又航行期間内デアリマシテモ臨時検査ノ必要ノアツタ場合トカデアリマスレバ即チ函館ノ船舶司檢所ト云フ意味デゴザイマス

○名村泰藏君 成程サウスルトナンデスナ、船ノ唯居ルト云フダケデアツテ此船ハ横濱ナリ、或ハ長崎ナリヲ本トシテ居ル、持主ハ長崎デアアル長崎ガ定繫港デアルト云フ極メ方ヂヤナイノデゴザイマスナ

○政府委員(佐藤秀顯君) 左様デゴザイマス

○名村泰藏君 ツレカラ此検査官ト云フモノハ今日ノ司檢官ニ致サセルモノデアリマスカ又ハ別ニ司檢官ト云フ者ヲ拵ヘテ第一ノ検査ニハ何人デ検査スル、遞信大臣ニ不服ヲ申出ルトキハ何人デ検査ヲスルトカ其邊ハドウ云フ手續デアリマスカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 御答ヲ致シマス、矢張船舶司檢所ノ司檢官ヲ以テ此検査官吏ニ當テル積デアリマス、又再検査ノ場合デアリマスナラバ無論同一ノ者ニハ命ゼラレマセヌガ矢張司檢官ノ内ノ積デアリマス、人ハ二人ヲ以

テスルトカ或ハ三人ヲ以テスルトカ云フ限ハ無いノデアリマス

○子爵内藤政共君 一寸質問致シマス、第四條ノ所デゴザイマス、十五噸以上或ハ百五十石以上ト云フコトニナッテ居ル此ノ所ハドウ云フコトニナリマスカ、是マデノ規則ニ依リマススト云フト日本形船舶ハ五百石以上ノモノハ新造スルコトハナラヌト云フコトガアリマス、然ルニ當今マデノ所デハ五百石以上ノモノデ或ハ千石モ積メルヤウナモノガ有リマスガ日本形船舶デハ五百石未滿ト云フモノハ或ハ四百九十九石ト云フヤウナ誠ニ際ドイ所ノモノニ是ガナッテ居リマス、其實際ノ積載ニ至ッテハ千石以上モ積メルト云フヤウナモノモ隨分澤山ゴザイマス、又新造スルコトガ出來ヌト云フコトカラ或ハ古船ノ板子一枚アルト云フ其板子ヲ以テツレデ船ヲ拵換ヘタ、新造ノ名義デナク修繕ノ名義デ僅カ板子一枚ヲ以テ往テ其船體ヲ拵ヘルト云フヤウナコトデ是マデ七八百石ノ船ヲ用井テ居タコトモ澤山アリマスツレデ其内ニモ此五百石未滿五百石以上ト云フコトニナリマスルト誠ニムヅカシイコトデアリマス、僅ナ尺ノ取方デ以テ五百石以上ニモ爲レバ五百石未滿ニモ爲ル、甚シキニ至ッテハ船幅ガ三尺モ變ッテ書イテアル是ト云フモノハ定テ私ノ考ヘル所デアリ司檢官ガ皆其地方官デ以テ検査ヲ致スト云フコトドドウモ船舶ノ検査ト云フモノニハ慣レヌ素人ノコトデアアルカラ斯ル間違ガ出來ルノデアラウト考ヘル、サウシテ見ルト此検査法ニ至ッテモ百五十石以上或ハ十五噸ト云フコトガアリマスガ、其十五噸、或ハ百五十石、是ガ間違ノ本ニ爲ッテ百五十石ノモノデアルト云フコトヲ縣官ガ認メテ居ッテモ實際取ッテ見ルト五百石以上或ハ千石以上ト云フ船ガ出來ルヤウナコトニナリハシマイカト考ヘル、其處ラ邊ノ所ハ地方官デ以テ調べルニハ何カモツツト見易イ規則デモ作ルト云フコトカ、間違ノ出來ヌヤウナ規則デモ作ルモノカ何カト云フコトノ御見込ガ有ルノデスカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 御答致シマス、此船舶ノ積量ヲ測度致シマスノニハ、船舶積量測度規則ト云フモノガ有リマシテ西洋形デアリマスナラバ百立方尺ヲ一噸ト致シマスシ、又日本形デアリマスナラバ十立方尺ヲ一石トスルコトハ極ッテ居ルノデアリマシテ測度ノ際ニ不慣レノタメニ錯誤ガ無いト云フコトヲ申上ゲル工合ニハ參リマセヌガ、何ニシロ一定ノ方法ハ示シテアルノデゴザイマス、デ此第四條デ十五噸以上若クハ百五十石以上ノ船舶ノ検査ハ地方官デハ致シマセヌ、其所在地ヲ管轄スル船舶司檢所デスル筈デアリマスカラ此上ハ尙ホ一層綿密ニ今御懸念ノアリマシタヤウナ錯誤ハ假リニ是マデ有ツタモノト致シマシテモ此後ハ無いコトニ是非サセナケレバナラヌノデアリマス

○子爵内藤政共君 モウ一ツ伺ヒマス、少々私ノ伺ヒマシタ點トハ御答ガ

違テ居リマスカラツレヲ一寸伺ヒマス、私ハ今ノ噸數ヲ測リツレカラ石數ヲ測ルノハドレダケノ立方尺デアルカト云フコト杯ヲ伺ッタノデハナイ、ソレ等ハモウ分リ切ッタ筈デゴザイマス、ソレ等ハ伺ヒマセヌガ又今ノ御答ニハ地方官デアルノデハナイ百五十石以上ノモノハ其所在地ノ船舶司檢所デアルノデアルカラ其處ヲノ所ハ間違ハナイト云フ、ソレモ能ク分ッテ居リマス、併ナガラ是ガ今度新造シマスナラバ新造シマスルコト云フ届ハ必ズ地方官デ調ベルニ違ナイと思フ、然ルニ其新造スル船ハ百五十石以上ニ當ルベキモノデアルカ、百五十石以下ノモノデアルカト云フコトヲ定メルノハ地方官デ定メネバナリマスマイト考ヘマス、ソレハ如何ニシテ御定メニナリマスカ、是ハ百五十石未満ノモノデアルコト云フコトヲ見ルノハ餘程ムヅカシカラウ、既ニ唯今ノ御答中ニモ百立方尺或ハ十立方尺ト云フ御定メニ爲ッテ居ル、ソレハ其尺ヲ取ッテ見ル所ニ至ッテハ誠ニヤサシイモノデアリマスガ船ノ如キモノハ決シテ家ノ如キ四角ナ物デ誰ガ算當シテ見テモ分ルト云フモノデアリマセヌ船ハ皆アノ御承知ノ通ナ船ノ格好デアリマスカラナカノ尺ノ取り方ガムヅカシイモノデアル、故ニ今日マデト云フモノハ百五十石未満ノ船デアッテモ千石以上ノモノガ澤山ニ有ル、ソレハ政府委員ニハ御覽ニナラナイカ知ラヌガ私ハソレヲヤッテ居ルコトデアルカラ是マデ何十艘見タカ……或ハ何百艘ニ爲ッテ居ルカサウ云フモノガ澤山ニ有ル、殆ド日本形船舶……間ヒノ子船ト云フモノハ皆サウ爲ッテ居ルト云フ有様デアリマスカラ其事ヲ伺ッタノデアル

○政府委員(佐藤秀顯君) 御答ヲ致シマス、矢張新造ヲ致シマシタ場合ニモ御承知ノ通丁度五百石以上ノモノハ二十年一月カラ禁止ニ爲ッテ居リマスカラ是ハ出來ル筈ノナイモノデアリマスガ其以下百五十石以上デアリマシタナラバ新造致シマシタモノデモ始テ航行ノ用ニ供スルトキニハ船舶司檢所ノ檢査ヲ受ナケレバナラヌノデアリマスカラ是ハモウ地方官デ檢査ナリ測度ヲスル限リデハナクナルノデゴザイマス、此法律ガ實行ニナリマスレバ……ソレデ御分リニナリマシタカ

○子爵内藤政共君 サウ致スト百五十石未満或ハ十五噸未満ノモノモ矢張地方官デアルモノデハナイノデアリマスカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 御答ヲ致シマス、ソレハ地方官デアルノデゴザイマス

○子爵内藤政共君 サウ致シマススト十五噸未満或ハ百五十石未満ト地方官ガ認メタ所ノモノガ其倍ヨリ大キナモノガ出來ルヤウニナリハ致シマセヌカト云フ懸念ヲ伺ヒタイ

○政府委員(佐藤秀顯君) ソレハサウ云フ錯誤ヲ發見致シマスレバ無論犯則

デアリマスカラ司檢所ノ檢査ニ移シマスルノミナラズ相當ノ制裁ヲ與ヘナケレバナラヌデアリマスルガ分ラナイ場合ハドウスルカト云フ御尋ハ今此箇條ニ餘リ關係ガナイト存ジマスカラ別ニ申上ゲル折モ有ルデゴザイマセウ

○子爵内藤政共君 モウ一遍伺ヒマス、成程取除ケノ場合ハ是ハ如何ニシテモ致方ガナイと思ヒマス、併ナガラ十艘ノ船ナラ凡ソ八九艘マデ間違ッテ居ルノハ是ハ取除ケノ場合トハ云ヒナガラ餘リ間違ッタコト、思ヒマス、今日マデノ場合ハサウデゴザイマスカラ此以上ハ茲ラハドウナルカスウ云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス

○政府委員(佐藤秀顯君) 今マデハ御承知ノ通日本形船舶ニ附イテハ測度ナリ取締ナリハ一般ニ法律デ設ケタモノモアリマセズ地方官ニ一任シテアッタノデアリマスカラ今御話ノヤウナコトガアルカモ知レマセヌガ此際之ヲ實行シテ參リマスストキニハサウ云フ不始末ハ必ズ無クシナケレバナラヌト存ジマス

○小原重哉君 本員モ少シク委員ニ質問致シ度ク存ジマス、第一條ノ第二項ニ有ル噸數ノコトデゴザイマス、此登簿噸數ハ汽船モ帆船モ單ニ算率ハ同一デゴザイマスルカ將タ區別ノ立ッテアルノデゴザイマスカラツレヲ伺ヒタイ

○政府委員(佐藤秀顯君) 小原君ニ御答ヲ致シマス、登簿噸數ハ全體ノ噸數カラ致シマシテ機關室ト乗組員ノ室ニ充テマス席ダケヲ除イタモノヲ登簿噸數トスルノデゴザイマス、是モ先刻申述マシタ積量測度規則ニ明記シテアル度リ方デアリマス、帆船ニハ固ヨリ機關室ト云フモノハゴザイマセヌカラ乗組員ノ室ダケヲ除イタモノヲ登簿噸數トスルノデゴザイマス

○子爵谷干城君 少シ私ハ入費ノコトヲ御尋致シマス、總テ此法律ハ如何ナル結構ナ法律デモヒドウ手數ガ掛リ入費ガ餘計掛ルモノデハ堪ラヌ、法律ノ結果デ金ハ出サヌナリマセヌカラ此法律ガ宜イカラト云ッテ直グニ御同意ト云フ譯ニハ行カヌ、況ヤ今日ハ費用ノコトニ附イテハ餘程注意ヲセバナラヌ時デアアル、本員杯ノ考ニ於テハ實ハ大抵ノコトナラヒドウ入費ノ要ルト云フ法律案ハマア御斷リヲシタイト云フ考デアリマス、第一ニ御尋ヲスルノハ是ハ改良シテ擴張スルニ附イテハ如何バカリノ入費ヲ要スルヤ否ヤ、第二ハ夥シイ和船ヲ檢査スル所ノ人員、今ノ人員ニ較ベテ如何バカリ増加ニ爲ルヤ否ヤ、此二箇條ヲ承ッテ置キタイと思フ

○政府委員(佐藤秀顯君) 谷子爵ニ御答ヲ致シマス、唯今豫算ヲ致シマシタ所デハ船舶檢査ナリ竝ニ職員ノ試験ヲ受ケマス者ノ非常ニ増シマスニ拘リマセズ帆船ノ檢査ハ無論汽船程ニ繁密ニ涉ラナケレバナラヌ譯デアリマセヌタメニ入費ハ二十九年度ノ豫算ハ船舶司檢所全體デ四万六千百圓餘ニナッテ居リマスガ……

〔子爵谷干城君「増加デハナイノデスカ」ト述フ〕

イニ二十九年度ノ豫算デアリマスガ、此法律ガ實行ニナリマスルノハ三十年度ニナルデアリマスカラ三十年度カラシテドレ程増シマスカト概算ヲ致シマシテ所デハ四万六千百圓ニ對シマシテ増ス所ハ四万四千圓許リ、八割一分許リノ増加ニナツテ居リマス、ソレカラ定員ハ唯今司檢官ハ十二人デアリマス、ソレカラ司檢官補ガ十五人デアリマスノヲ凡ソ倍數ニ増スコトガ必要デアラウト存ジマス

○子爵谷干城君 分リマシタ

○兒玉淳一郎君 本員モ質問ガゴザイマス、若シ此司檢官ガ誤リヲ致シタトキニハ遞信省ハドウ云フコトヲ以テ司檢官ヲ御取締ニナルコトデゴザイマス

○政府委員(佐藤秀顯君) 御答ヲ致シマスガ職責ヲ誤リマシタ者ハ一般ノ官吏服務紀律ナリ又懲戒法ニ依リマシテ取締ル外ハナイノデゴザイマス

○兒玉淳一郎君 尙ホ伺ヒマスガ私ハ固ヨリ船ノ事ニハ素人デゴザイマスガ此司檢官ニ爲ル人ノ資格ハドウ云フ工合ニシテ定メラレマスカ

○政府委員(佐藤秀顯君) 技術官ノ任用ト同ジコト、御承知下スツタラ宜カラウト存ジマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 他ニ御發議ガゴザイマセネバ本案ノ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○男爵西五辻文仲君 此特別委員ハ成規ノ通九名ト致シテ推薦ハ議長ニ御委任ヲ致シタイ、且ツ次ノ二法案モ牽連シテ居ルモノデアリマスカラツレガ極マリマシタ以上ハ矢張同一委員ニ付託スルコトヲ此場合ニ申シテ置キマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 一寸西五辻男爵ニ申シマスガ唯今ハ議事日程第二ノ場合デアリマスカラツレダケ……

○調所廣丈君 唯今ノ發議ニ賛成

○副議長(侯爵黒田長成君) 唯今西五辻男爵ヨリ本案ノ特別委員選定方ヲ議長ニ委任シテ人員ハ定規ノ九名トスルト云フ動議デ、此動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數デゴザイマス、次ニ船舶職員法案、政府提出、第一讀會ヲ開キマス、提出文ノミヲ朗讀致サセマス

〔有賀書記官朗讀〕

船舶職員法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治二十九年一月二十日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
遞信大臣 白根專一

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ
船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條 船舶職員免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス
第三條 船舶職員免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第五條 船舶職員免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且船舶職員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船ニ乗組ミ運航若クハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ船舶職員試驗規程ニ合格スト認ムル者ニハ試驗ヲ用井シテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ船舶職員試驗ヲ受クルコトヲ得ス又此ノ法律ニ定ムル船舶職員タルコトヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ

債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三 瘋癲白痴若クハ身體不具ナル者

四 船舶職員免狀ノ行使ヲ禁止セラルタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ乙種船長ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條 左ニ掲グル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乘組マシメサル者

二 第二條及第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員免狀ヲ受有セシテ船舶職員ト爲リタル者

三 第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者

四 船舶職員免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用井ス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役ニ之ヲ適用ス

附則

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム
前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條 積石數百五十石以上ノ帆船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ第二條及第四條ヲ適用セス

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試験ヲ用井シテ相當ノ船舶職員免狀ヲ授與スルコトヲ得

第一號表

航路定限		船舶種類		積登簿		職員名稱		免狀種類		定員	
船汽		船帆		船汽		船帆		船汽		船帆	
百噸以上	百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿
機船	機船	機船	機船	機船	機船	機船	機船	機船	機船	機船	機船
關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
二種	三種	二種	三種	二種	三種	二種	三種	二種	三種	二種	三種
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
運	運	運	運	運	運	運	運	運	運	運	運
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士

第二號表

新舊免狀對照表

舊免狀	新免狀
甲種船長	甲種船長
甲種一等運轉手	甲種一等運轉士
甲種二等運轉手	甲種二等運轉士
甲種一等機關手	機關長
甲種二等機關手	一等機關士
乙種船長	乙種船長若クハ丙種船長
假免狀船長	乙種船長若クハ丙種船長
乙種一等運轉手	乙種一等運轉士若クハ丙種運轉士
假免狀一等運轉手	乙種一等運轉士若クハ丙種運轉士
乙種二等運轉手	乙種二等運轉士若クハ丙種運轉士
假免狀二等運轉手	乙種二等運轉士若クハ丙種運轉士
乙種一等機關手	一等機關士
假免狀一等機關手	一等機關士
乙種二等機關手	二等機關士
假免狀二等機關手	二等機關士
小形船船長	乙種二等運轉士
小形船機關手	三等機關士

(國務大臣白根專一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(白根專一君) 此法案ハ船舶検査法案ト自ラ關聯致シテ居ルモノデアリマス、船舶ノ検査ニ於キマシテ検査終了ヲ致シテ其效力ノアル船舶ハ遠洋ニ近海ニ沿海ニ平水ニ其船ヲ運行スルコトガ出來ル、又其機關モ充分備テ居リマスルガ之ヲ操縦スル所ノ船舶ノ職員ト云フモノ、資格並ニ免狀ノ效力及乗組員ノ制限ト云フモノヲ法律デ定メテ置キマセヌト機關ハ充分ナリト雖モ之ヲ動かカス點ニ至リマシテハ此船舶ノ職員ト云フモノハ最重要ナ部分ニ居ルモノデアリマス、就中此法案中ニ於キマシテモ第一號表ノ如キハ其海ノ性質ト並ニ汽船ノ噸數、帆船ノ噸數、日本形ノ積石ト云フモノニ應ジマシテ其乗組員ヲ定ムル表デアリマスガ是ハ餘程熟考ノ上此表ヲ編製シタ譯デアリマス、ト申シマスモノハ船ヲ第一動かカスモノハ是ハ申スマデモナイ譯デアリマスガ是ダケノ職員ヲ必ズ要スルト斯ウ法律デ定メル以上ハ其職員ハ職員ノ有ルモノデ法律ノ制定上デ若シ不完全ト云フコトデアリマスルト此船ハ危險ニ至リマス、此法律ハ船舶ノ危險ニ至ラシムル結果ニ爲リマス、サリナガラ餘リ準備ヲスルガ宜シトシマシテモ是ダケノモノヲ制度ヲ備ヘテ完全ニシタ

イト云フト一ノ船舶ニ多クノ職員ヲ乗セヤウトスルト現今ノ汽船帆船ノ數ノミヲ以テシテモ一人増シテモ千五百人位増スト云フコトニナリマス、ソレデ此制定方ニ附イテハ申上グルマデモアリマセヌガ諸君ニ於カレマシテモ充分ニ御審議ヲ盡サレンコトヲ特ニ望ムデアリマス、其外現行ノ法律ニ於キマシテハ是ハ數年前ニ出來マシテ許多ノ歲月ヲ經テ居リマスカラ今日ノ海運ノ情況ニ適應セヌモノガ多キアリマス、是ハ一々茲デ陳述ヲ致シマセヌガ例ヲ舉ゲテ申シマスレバ日本形船ニ附イテノ職員ノコトハ一切舉ゲテアリマセヌカラ此法案デハ検査法ニ陳述致シタ通デアリマス、皆籠ッテ居リマス、職員ヲ置クト云フコトガアリマス、又外國政府ノ免狀ヲ持ッテ來マスル者ハ其外國政府ノ免狀ガアル故ニ我政府デハ更ニ試験ヲ要セズシテ船舶職員タラシムルノガ今日ノ制度デアリマス、本法ニ於テハ假令外國政府ノ免狀ヲ受有シテ居リマシテモ此法案ニ於テハ必ズ本法ノ試験ヲ經マシタ上デナケレバ帝國ノ船舶ニハ乗込マセヌト云フコトニシタ譯デアリマス、先ヅ簡單ニ大要ヲ申セバ左ノ如キモノデアリマスカラ宜シク諸君ノ御協賛アラント望ミマス

○子爵内藤政共君 御質問ヲシマス、此第三條ノ甲種船乙種船ト云フハ定メテ今度新ニ設ケラレタル所ノモノデレマデノ日本形船ノ船長ト爲ルベキモノダラウト考ヘマス、サウ致シマスト是マデハ帆船デナケレバ乙種ノ者ガ乗テ居ラナケレバイケンナイデアリマスガソレガ今度ハ此法案ニ據リマスルト西洋形日本形ガ無クナリマスカラ乙種デナクテモ丙種デユク譯デアリマスカ、如何デアリマスカ、ソコヲ伺ヒマス

○政府委員(佐藤秀顯君) 唯今ノ御問ニ御答ヲ致シマス、總テ御問ノ通デアリマス、乙種ハ小サイ汽船ニ乗組ミマス者ノ名稱ト致シマシテ丙種ハ總テ帆船ニ限ルコトニシタノデゴザイマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 別ニ御發議ガゴザリマセネバ本案特別委員ノ選舉ニ移リマス

○調所廣次君 本議案ノ付託委員ハ矢張前委員ニ委託ナルヤウニ致シタウゴザイマス

○柴原和君 贊成

○伯爵冷泉爲紀君 贊成

○副議長(侯爵黑田長成君) 本案ノ特別委員ハ前委員ト同一委員ニ付託スルト云フ調所君ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半數デゴザイマス、次ニ船舶職員懲戒法案政府提出第一讀會ヲ開キマス、是モ提出文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

船舶職員懲戒法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治二十九年一月二十日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
逕信 大臣 白根專一

船舶職員懲戒法

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

第一章 總則

第一條 船舶職員免狀ヲ受有スル船長、運轉士機關長、機關士其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若クハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
- 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
- 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
- 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

- 一 免狀行使ノ禁止
- 二 免狀行使ノ停止
- 三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上五年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時効

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルルコトヲ得ス

第六條 時効ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 調書ノ調製期間ノ計算及書類ノ送達ニ付テハ此ノ法律ニ規定スルモノヲ除ク外刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

第九條 海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ逕信省ニ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並ニ其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二 二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第十五條 前條ノ申請ヲ爲ス者ハ高等海員審判所ニ其ノ趣意書ヲ差出ス

第十六條 審判官ノ除斥、忌避及回避ハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第三章 審判前ノ手續

第十七條 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ海難及此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタル

トキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ
第十八條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十九條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ又必要ニ應ジ實地臨檢スルコトヲ得

第二十條 理事官ハ職權ヲ以テ又ハ遞信大臣ノ命ニ依リ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證據其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第二十一條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

第二十二條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十三條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

被審人ノ訊問對質、證人訊問並ニ鑑定ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スルモノヲ除ク外刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二十四條 被審人若クハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ巡查又ハ憲兵上等兵之ヲ執行ス其ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法ニ定メタル勾引狀執行ノ手續ヲ準用ス

第二十五條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若クハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十六條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若クハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十七條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十八條 地方海員審判所ハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

第二十九條 審判ハ之ヲ公開ス但安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第三十條 第二十三條乃至第二十六條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十一條 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十二條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十三條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十四條 被審人ハ補佐人ヲ用フルコトヲ得但地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十五條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十六條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十七條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十九條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第四十條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第四十一條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ覆審ヲ求ムルコトヲ得

第四十二條 覆審請求ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス
闕席裁決ニ對スル覆審請求ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十三條 覆審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ請求書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該請求書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十四條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十五條 高等海員審判所ハ覆審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

其ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四十六條 高等海員審判所ノ裁決ニ對シテハ不服ヲ申立テ又ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第六章 執行處分

第四十七條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十八條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ遞信省ニ送付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間満了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止若クハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出サルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十九條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ免狀行使ノ假停止若クハ差押ヲ受ケタル者其ノ職務ヲ執リタルトキハ船舶職員法第八條ノ罰則ヲ適用ス

第五十條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲メ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若クハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲メ海員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自白シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

第五十二條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第五十三條 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 此ノ法律施行ノ際西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ覆審ヲ求ムルコトヲ得

(國務大臣白根專一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(白根專一君) 此法案ハ前ノ船舶職員法ニ關聯ヲ致シテ居リマシテ、職員法ヲ右ノ如ク定メマスル以上ハ船舶職員ニ對シテノ懲戒法ト云フコトガ必要ヲ來シテ居リマス、尤モ現行法ニ於キマシテモ、之ヲ懲戒スルコトハ載セテアリマスル、サリナガラ此法タルヤ海難或ハ事故ノ有ツタ時分ニハ遞信大臣ハ司檢官吏ヲシテ之ヲ査定致サセマシテ遞信大臣自ラ承認ヲ與ヘテ執行スルコトニナツテ居リマスル、諸君モ御承知ノ通官報ニ時々登錄シテアル所ノ形式ニナツテ居リマスル、併シ此事柄ヲ考ヘテ見マスルニ甚ダ重イ事柄デアラウト考ヘマス、何トナレバ海難事故ニ就キマシテ、其被告人一人ノ事ニ關係ヲ止メマセヌ、其審判ノ致方ニ就キマシテハ或ハ運輸營業者ノ損失トナリ、或ハ保險營業體ノ者ニ影響ヲ及シ、就中外國人ニ關係ヲ致シ外國船舶ニ關係ヲ致スト斯ウ云フヤウニ、此外之ヲ列舉シマスレバ澤山有リマスルガ、隨分其關係モ大ナルモノデアリマスル、故ニ今日ノ如キ單純ナ行政處分ニ之ヲ任カシテ置キマシテハ、甚ダ將來ニ於テ差支ヲ生ズルコトハ必然デアリマスル、故ニ裁判組織法ニ據リマシテ成ルタケ行政ノ權力ヲ以テ立入ラヌヤウニ致シマシテ、特殊ノ官衙ニ於テ之ヲ審判致サセルト云フコトニ致スガ最モ性質上カラ論ジマシテモ、今日ノ實際カラ論ジマシテモ、當然デアラウト考ヘマスル、且ツ又唯地方審判所ノミヲ以テ終結ト致シマスルト、或ハ被告人其他ノ關係ヲシテ冤枉ヲ懷カシムルト云フヤウナコトガ有ウト考ヘマスカラ、高等審判所ト云フモノヲ設ケマシテ、二審ノ制ヲ執ツテ其邊ニ於テ遺憾ナカラシムルト云フコトヲ期シテ居リマスル、先ヅ大要斯ノ如キ精神ヲ以テ編制ヲ致シマシタカラ、是亦諸君ニ於キマシテ宜シク御協賛アルヤウ望ミマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ本案ノ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○男爵西五辻文仲君 此案モ前ノ特別委員ト同様ノ委員ニ付託スルコトヲ提出致シマス

○小原重哉君 贊成

○副議長(侯爵黑田長成君) 西五辻男爵ヨリ本案ノ特別委員ハ前二件ノ特別委員ト同一ノ委員トスルト云フ動議ガゴザリマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數デゴザリマス、就キマシテハ是ヨリ直ニ此三件ノ特別委員ヲ指名致シマスデゴザリマス、船舶検査法案外二件ノ特別委員ニハ侯爵細川護成君、伯爵萬里小路通房君、子爵伊東祐磨君、子爵内藤政共君、箕作麟祥君、名村泰藏君、男爵吉川重吉君、森岡昌純君、武井守正君、此九名ノ御方ニ御委託致スコトニ致シマス、次ノ議事日程ハ後トヨリ御報告ニ及ビマス、本日ハ散會

午前十一時四十八分散會